

野洲市立さくらばさまこども園

日時：2017年10月25日（水）13:30-18:00

2017年11月10日（金）9:30-16:00

場所：野洲市小篠原200番地

国道8号線や東海道新幹線のすぐ近くですが、銅鐸博物館や古墳公園があり、古代の暮らしが伺える地域にあるこども園です。今回はドングリや葉っぱなど自然にあふれた桜生史跡公園で実施しました。

（対象：4歳児・5歳児 60名）

1日目は講座、下見とプログラムづくり、2日目は作成したプログラムの実践とふりかえりです。講座の一部を紹介します。 講師 島川武治（しまっち）さん

森は生きている

森にやってきた時は、木があるなあ、ドングリが落ちているなあ、だけだった印象が、遊びを通じて自然が一つひとつ違うことに気づきます。また五感を通して木々に触れていると、その樹皮の様子の違い、葉の茂り具合、触れた時の温度の違いに気づきます。

遊んでいるうちに、だんだんと木1本1本が個性的な存在になり、生きていることに気づいていきます。



ルーペで、樹皮を観察。コケの森が出来ていたり、虫が隠れていたり、木そのもの以外に命の場になっていることに気づきます。

木に触れて、温度の違いを感じます。じっくり触っているとその違いが分かってきて、森の1本1本の木が愛おしくなってきます。



森の妖精を作ろう（ばさまちゃん）

森にいろんな色の葉っぱやドングリが落ちていることを知った子どもたち。そこへ、森の妖精のばさまちゃんがやってきました。けど、ばさまちゃんは真っ白け。そこで、体には緑の葉っぱ、腕には黄色の葉っぱ、スカートには茶色の葉っぱを貼りつけてあげることになりました。

白からだんだんと森の葉っぱで覆われてきれいになるばさまちゃん、ドングリやキノコも貼りつけてあげました。

最後は、ばさまちゃんと「どんぐりコロコロ」の歌を歌いました。

ばさまちゃんが来てくれたよ！けど、真っ白けやね。服を着せてあげよう



緑の葉っぱを拾って貼りつけてあげよう！
細いのも、大きいのも、背中にも貼ろう

こんなに大きな葉っぱを見つけたんやねーすごいねー
腕にはイチヨウの黄色い葉っぱがいっぱいやー

ばさまちゃんと一緒に歌おう「どんぐりころころ」
また、一緒に遊ぼうね



見つけてドン！！

あらかじめカードをもらっていた子どもたち。カードには、落ち葉やドングリが描いてあります。森でカードに書いてある落ち葉やドングリを拾って、ペアの友だちと一緒に「せーので、見つけてドン！！」と自然物を見せ合いっこをします。同じのを出せたら、先生にシールを貼ってもらって、レベルアップ！次の落ち葉やドングリを拾います。最初は簡単なドングリや落ち葉だったんですが、レベルがあがると、なかなか見つけるのが難しくなり、森の自然物をじっくり探す楽しさがあります。

カードに描いてあるのを見つけてね。見つけたら、友だちと「見つけてドン！」で見せ合いっこ



ドングリとヤシャブシを拾って、「見つけてドン！」一緒やね～



ヒノキの実を見つけたよ。葉っぱにいっぱいついてたー



葉っぱを見つけて「見つけてドン！」緑と黄色の葉っぱがあったんやねー

プログラムを終えてのふりかえりから

- フィールドワークで、自分が知らなかった自然を知ることができた。保育者自身を知ることによって子どもたちが意欲的に自然と関わるようになると思う。
- 他園の先生と話しながら、目標に向かう機会も少なかったなので、勉強になった。
- 今回初めて、自然とどう関わるかという保育のねらいを考え、実践することができた。
- 久しぶりに保育の実践を行うことができた。子どもたちと同じ体験をして目線を同じくすることが大事と思った。
- ちょっとした工夫で、保育は楽しくなる。保育者も楽しいと子どもも楽しさを味わえる。
- 今回初めて、自然とどう関わるかという保育のねらいを考え、実践することができた。
- プランを実際に見ることでやり方がよくわかった。さらにアイデアを考え、次につなげたい。
- 自然は、四季折々の変化だけではなく、常に変化している。この変化を、子どもとともに出かけていくことで、五感を通して感じられる保育を大事にしていきたい。